

新中央（文系）図書館計画のためのアンケート 調査結果報告書

調査期間：平成 23 年 11 月 9 日（水）～平成 23 年 12 月 26 日（月）

平成 24 年 3 月

新中央（文系）図書館基本計画検討ワーキンググループ

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

1. 調査主体
2. 調査目的
3. 調査対象
4. 調査期間
5. 調査方法
6. 回収方法
7. 回答数

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

参考資料

- ・新中央図書館基本計画第一次案
- ・アンケート用紙
- ・新中央（文系）図書館検討のためのアンケートへの協力をお願い

（別添資料）

新中央（文系）図書館計画のためのアンケート調査結果（学部生，大学院生対象）

新中央（文系）図書館計画のためのアンケート調査結果（教員，大学院生対象）

はじめに

今回新中央（文系）図書館基本計画検討ワーキンググループ（以下、「新中央図書館」、「WG」）が実施したアンケートは、前年度にWGで検討を重ね、WGの上位組織である新中央（文系）図書館検討専門部会において承認された新中央図書館基本計画第1次案（以下、「基本計画案」）を受けて、新中央図書館に対するニーズ調査の一環として実施したものである。

WGでの検討の結果、アンケートの対象者を学生と教員に分けて別個にアンケートを作成し、大学院生については両方のアンケートへの回答を依頼することとした。またアンケートの対象部局は、低年次学生についてはすべての学部、学部3年生以上の学生および教員については伊都キャンパスの文系地区を構成する学部、学府、研究院を主な対象とした。

今回のアンケートの主な目的はWGが基本計画案のなかで示した新中央図書館への機能の集中化という理念が教員や学生が新中央図書館に対して求めているものと合致しているかを把握することと、アンケートの結果を今後基本計画の施設・設備計画を策定していくうえでの検討材料とすることにあつた。

アンケートの内容について、学生アンケートでは現在の図書館の利用状況と新中央図書館への期待度を調査する内容とした。いっぽう教員アンケートでは、自身の教育研究における学内資料の利用状況や、基本計画案の趣旨をふまえたうえで新中央図書館での資料の収蔵方法や図書館のあり方等についてどのような要望を持っているかを調査する内容とした。そのため教員アンケートには基本計画案のほか新中央図書館についての検討経緯等を説明した文書を添付し、回答にあたって一読していただくこととした。実際の質問項目については参考資料として実際のアンケート用紙をこの報告書に添付するのでそちらを参照いただきたい。

各アンケートの詳細な集計や分析は後に示すが、今回のアンケートの回答結果からは全体として基本計画案の理念が教員や学生が図書館に対して求めているものと合致していると認められた。

まず学生アンケート回答からは、基本計画案が学生の要望に充分応えうるものであり基本計画案を確実に実現することが伊都キャンパスにおける学生の学習・教育・研究環境の飛躍的な向上に必要であることということが確認できた。

一方教員アンケート回答からも、WGが基本計画案で示した理念は教員の新中央図書館に対する要望をある程度反映できていると判断できる。なかでも移転後の図書館のあり方に関する設問への回答では、基本計画案が示した新中央図書館への資料や機能の集中化の方向に一定の理解が得られたものと考えている。ただし人文科学研究院と法学研究院では「機能分散型」「完全分離独立型」を求める回答が4割程度あり、必ずしもすべての部局で新中央図書館への資料や機能の集中化を求める回答が多数を占めたわけではない。

新中央図書館として各部局が考える望ましい図書館のあり方を実現していくためには、今後検討をすすめるなかで、さらなる各部局との調整が必要となるであろう。

また今回実施したふたつのアンケート調査を通じて、図書館の基本機能の充実、そして図書館の立地についての重要性が改めて確認された。いいかえれば教員・学生の両者からこのような当然の要望が強く出されたことは、現在の附属図書館が必ずしもこれらを充分には満たしていないという認識が示されているといえよう。

最後に今回のアンケート回答では、図書館が有するモニユメンタルな機能についても複数の

意見が寄せられた。この点についてはWG内でも度々議論されたところであるが、新中央図書館は単なる書庫+閲覧室ではなく、九州大学のシンボルとして中核的な機能を担うことが求められると考えている。とくに、南から伊都キャンパスにアプローチする学園通りのほぼ正面に位置する斜面に建設予定される新中央図書館には、九州大学全体のイメージを象徴するランドマークとしてのデザインが求められるであろう。

調査の概要

1. 調査主体

新中央（文系）図書館基本計画検討ワーキンググループ

2. 調査目的

新中央図書館の主な利用対象者と想定される部局の教員および学生を対象に、現在の図書館と図書の利用等についての実態把握と、施設設備を中心とした図書館に対するニーズを把握することを目的とし、調査結果にもとづき施設・設備計画の策定を進める。

3. 調査対象

教員 ・ ・ ・ 伊都キャンパスの文系地区を構成する研究院及び留学生センターの教員
大学院生 ・ ・ ・ 伊都キャンパスの文系地区を構成する学府
学部生 ・ ・ ・ 全学部（1、2年生）
 伊都キャンパスの文系地区を構成する学部（3、4年生）

4. 調査期間

平成 23 年 11 月 09 日（水） ～ 平成 23 年 12 月 26 日（月）

5. 調査方法

アンケート用紙の配布および Web アンケートフォームによる調査

6. 回収方法

学部生 . . . 授業内でのアンケート用紙配布と当日中の回収、Web 入力
大学院生 . . . Web 入力（一部アンケート用紙での回答あり）
教員 . . . Web 入力（一部アンケート用紙での回答あり）

7. 回答数

学部生 . . . 2,152 名
大学院生 . . . 55 名（学生向けアンケート）
 37 名（教員向けアンケート） 研究員 2 名を含む
教員 . . . 109 名

詳細な回答者内訳、回答率等は各アンケート報告に記載

※大学院生については、学生向けと教員向けアンケート両方への回答を依頼した

- ・新中央（文系）図書館計画のためのアンケート調査結果（学部生，大学院生対象）
- ・新中央（文系）図書館計画のためのアンケート調査結果（教員，大学院生対象）

別添資料を参照のこと

おわりに

今回のアンケートの調査では、全学教育の英語の授業を担当されている先生方をはじめ多くの先生方に授業内でのアンケート実施にご協力いただいた。学生アンケートでは2,000人を超える学生から回答を得ることができ、実施にご協力いただいた先生方に深く感謝するとともに、忙しい教育・研究の合間に教員アンケートに回答いただいた各部局の先生方にも改めて御礼を申し上げる次第である。

WGでは今回のアンケート結果や図書館の利用データ（入館/貸出/在席数調査等）などをあわせて分析することで、新中央図書館が果たすべき機能を空間的にどう実現していくかについて引き続き検討を続けていくこととする。また今回のアンケート結果を平成24年度に行われる伊都キャンパスの文系地区基本設計のための参考資料のひとつとして全学的に共有したいと考えている。

最後に今後の新中央図書館の検討にむけて、今回のアンケート調査を通じてのWGの意見を述べることにしたい。

WGでは、新中央図書館が大学図書館としての基本機能を果たすためには、現在とくに箱崎地区に見られるような、研究棟に主要な資料が所蔵されている状況を新中央図書館へ集中させていく方向に変えていくことが望ましいと考えている。今回のアンケートへの回答からは蔵書の充実が教員のみならず学生にとっても新中央図書館が果たすべき最重要の機能として考えられていることが確認できたが、全学の利用者や一般市民への公開までを含めた資料の共同利用という観点や、資料の管理・保存環境を考えると、適切な設備の整った新中央図書館に資料を多く収蔵することが望ましいといえるのではなかろうか。

これらのことを考慮すると、文系部局では資料に寄り添って研究をするという意味で、伊都キャンパスへの移転を機に教育棟・研究棟だけでなく新中央図書館も教育・研究の拠点とすることを検討していただく必要があるかもしれない。そのためには多くの資料が研究者の身近にあるという現在の箱崎地区のメリットを、新中央図書館として主にアクセスの面で実現していく必要があるだろう。

利用者として新中央図書館を学習・教育・研究の拠点として活用するためには、図書館にアクセスしやすいことが最も重要であることは、学生と教員両者へのアンケートにより確認できた。しかし新中央図書館の建設予定地と文系地区との間にはキャンパスの地形に起因する高低差が存在し、一方低年次学生が伊都キャンパスでの学習拠点である現在のセンターゾーンから新中央図書館にアクセスするためには、学園通りを渡り、さらに200メートル以上の距離を歩かねばならない。このことを考えると、学生と教員両者の要望をともに実現させることは決して容易なことではない。

現在九州大学では平成23年10月に基幹教育院を設置し、すぐれた研究、大学院教育、専門教育、を生み出すための基礎教育の充実に重点を置いており、新中央図書館はその基礎教育において低年次学生が自ら学ぶための場として機能することも重要な使命としている。前述したとおり平成24年度には文系地区基本設計が行なわれ、そこでは新中央図書館を含む文系地区の諸施設の配置について関係部局間で検討が行われる予定である。WGとしては新中央図書館が九州大学の総合図書館として機能するためにも、関係部局の教育・研究のための利便性だけでなく、広く全学の学生の図書館利用の利便性についても考慮したうえでの議論が検討の場とされることを期待したい。

(記録)

1. 実施体制

平成 23 年度 新中央 (文系) 図書館基本計画検討 WG

(座長)	堀 貴	人間環境学研究院教授
	柴田 篤	人文科学研究院教授
	佐藤 廉也	比較社会文化研究院准教授
	木村 俊道	法学研究院教授
	関 源太郎	経済学研究院教授
	中里見 敬	言語文化研究院准教授
	小湊 卓夫	基幹教育院准教授
	井上 仁	情報基盤研究開発センター准教授
	大神 智春	留学生センター准教授
	三輪 宗弘	附属図書館付設記録資料館教授
	飯田 昇平	附属図書館図書館企画課長

2. WG 日程

2011. 07. 29	第 1 回 WG
2011. 08. 29	第 2 回 WG
2011. 10. 12	第 3 回 WG
2011. 10. 31	第 4 回 WG
2011. 12. 05	第 5 回 WG
2012. 01. 12	第 6 回 WG
2012. 02. 06	第 7 回 WG
2012. 03. 14	第 8 回 WG

3. 検討および実施経緯

2011. 06. 22 新中央（文系）図書館検討専門部会において平成 23 年度の WG 設置を承認
2011. 07. 29 第 1 回 WG 学生向けと教員向けのアンケートの実施を決定
2011. 08. 29 第 2 回 WG アンケート実施内容と方法について検討

- ・学部 1、2 年生への実施について、全学教育の英語の授業を活用を決定
- ・教員アンケートについて、参考資料の作成を決定

2011. 10. 06 全学教育課より 1 年生対象「英語ⅡB」「英語ⅢA」の各クラス情報を入手
2011. 10. 11 教員向けアンケートの参考資料について、施設部に内容を確認
2011. 10. 12 第 3 回 WG アンケート項目および参考資料について検討
2011. 10. 13 学部 1 年生対象のアンケート実施について、「英語ⅡB」内での実施を決定
2011. 10. 21 アンケート Web 回答フォーム作成（～2011. 11. 08）
2011. 10. 31 第 4 回 WG アンケート項目および参考資料について確定
2011. 11. 09 人文科学研究院教授会でアンケートについて説明、アンケート実施開始

※各部署の 11 月教授会において WG メンバーより説明、アンケート実施
※各部署教員メーリングリストにアンケート案内のメールを送信

2011. 11. 10 学部 2 年生対象授業「英語Ⅳ」内でのアンケート実施を決定
2011. 11. 11 学部 1 年生対象授業「英語ⅡB」でのアンケート実施（～2011. 11. 17）
2011. 11. 15 回答（紙）データ入力作業（～2011. 12. 26）
2011. 11. 22 法学部 2 年生対象授業「行政法Ⅰ」内でアンケート実施
2011. 11. 28 「英語Ⅳ」授業内でアンケート実施（～2011. 12. 2）
2011. 12. 05 第 5 回 WG アンケート実施状況報告と今後の実施方法について確認
2011. 12. 06 各部署教員メーリングリストにアンケート協力のリマインダーメール送信
2011. 12. 09 法学部 3、4 年生対象「比較政治学」、「商法Ⅰ」でアンケート実施
2011. 12. 15 経済学部 3、4 年生対象「上級マクロ経済」でアンケート実施
2011. 12. 20 各部署教員メーリングリストへ最終のリマインダーメール送信
（～2011. 12. 21）
2011. 12. 22 経済学部 3、4 年生対象「貿易投資分析」でアンケート実施
工学部建築学科 3 年生対象講習会内でアンケート実施（※Web 入力）
2011. 12. 26 アンケート入力終了
2011. 01. 04 回答集計開始
2012. 01. 12 第 6 回 WG アンケート回答結果、および集計の第一次報告
2012. 01. 31 アンケート集計・分析報告作成
2012. 02. 06 第 7 回 WG アンケート報告書検討
2012. 03. 14 第 8 回 WG アンケート報告書作成
2012. 03. 22 新中央（文系）図書館検討専門部会にアンケート報告書提出

參考資料

九州大学附属図書館は学習・教育・研究活動を支える学術情報基盤として、大学の中核を成す施設であるとともに、西日本及びアジアにおける拠点となる大学図書館である。附属図書館は紙媒体電子媒体を問わず学術情報資源を体系的に収集・組織化・保存・継承し、これを利用要求に対し効果的に提供する役割を持つが、新中央図書館はこれらの基礎的役割を十分に果たした上で、さらに活動を育む新たな場として機能することをその使命とする。このことを表現する基本コンセプトとして4つのキーワードを新中央図書館の柱に据え、学習・教育・研究・国際・社会の主に5つの観点から図書館像および基本機能を示す。

1. 基本コンセプト

次の百年を担う図書館であること

~アジアのトップブランドとして~

- ◇ いざなう —encourage [知の入口]
知の世界へ、知の深みへ
- ◇ つなぐ —link [知の交流]
知と人を、人と人を、過去と未来を
- ◇ うみだす —create [知の創造]
学生と、研究者と、市民と
- ◇ はぐくむ —cultivate [知の涵養]
新たなる知を、ゆたかな人を

<学習>

主体的な学びを創出する図書館

<教育>

教育活動に最大限活用される図書館

<研究>

世界水準の学術研究をうみだす図書館

<国際>

世界への扉となる図書館

<社会>

大学の知を社会につなぐ、開かれた図書館

2. 基本機能

新中央図書館は、九州大学附属図書館全体を統括する総合図書館として、各種事業の企画・立案、各館

及び関連機関・部署との連絡・調整機能を果たすとともに、全学教育及び人文社会科学系教育・研究の拠点となる図書館として、以下の諸機能を果たす。

2.1 学習

学習者のニーズに応じた環境を整備し図書館の有する人的資源を活用して、主体的な学びを促進する。

- ◆ 目的や学習形態、人数に応じ選択できる多様な学習スペースを提供する。
 - 閲覧スペース、グループ学習室、個室等多様な学習スペース
 - 個人利用、多人数での利用に対応したパソコンやネットワークが利用できる環境 など
- ◆ 長時間滞在が可能となるよう、快適かつ安全で、アメニティ機能の充実した居心地のよい空間を提供する。
 - 長時間の学習に耐えうる快適な学習スペース
 - 飲食ができるスペース、仮眠もできる休息スペース
 - 眺めのよいサロンの空間 など
- ◆ 学内関係部署と連携し、学生期に応じた人的なサポートを行う。
 - 学生の要求に応じた丁寧な学習サポート
 - 主体的な学びをうみだす学習の場のマネジメント
 - 初年次ガイダンス、3-4年次ガイダンス、修士対象ガイダンス
 - 学習サポーターの配置 など
- ◆ 学生用図書を体系的に整備し、資料の特性に応じた配置および閲覧スペースを提供する。
 - 授業関連図書、各分野の基本図書、参考図書等の効果的な整備・配置
 - 資料を利用しやすい閲覧スペース など
- ◆ 資料や空間の「見える化」により知的刺激を与える創造的空間を提供する。
 - 膨大な図書資料を知の背景として一望できる空間 など

2.2 教育

本学の教育活動と連携し、図書館資源を最大限に活かして、教育を積極的に支援する。

- ◆ 教員との連携により、授業関連資料を効率的・効果的に整備・運用し、提供する。
 - シラバス掲載図書の効果的整備・配置、シラバスとの連携 など
- ◆ 図書館の資源（設備・蔵書・人材）を有効に活用できる環境を提供する。
 - 授業に利用できる部屋・設備、図書館資料を活用して定期的に演習ができるゼミ室
 - 授業成果の展示・発表スペース
 - 新しいスタイルの授業を行える実験的空間 など
- ◆ 教育活動と連携し、情報リテラシー教育の主導的な役割を担う。
 - 図書館活用セミナー、各種データベース講習会、各授業と連携した講習会 など
- ◆ 教材開発の支援を行う。

2.3 研究

学術情報基盤の整備と研究活動の専門的支援により、学術の発展に寄与する。

- ◆ 人文社会科学系の研究図書館として、選書・評価体制と資料保存環境の整備により、学術情報基盤を体系的・永続的に構築し、提供する。
 - 人文社会科学系のアーカイブとして、研究用図書・コレクション等，産業経済資料・歴史資料等，学術雑誌の集約と研究者に対する効率的な提供
 - 恒常的な財源確保と効果的な選書・評価体制による体系的な蔵書の構築と最適化
 - できるだけ開架を多くし，すべての資料を迅速に提供できる資料配置
 - 資料の特性に応じた保存環境の整備 など
- ◆ 研究者が学術情報資源を最大限に活用できるよう，文献の検索から入手・管理，論文の執筆・公開までをトータルにサポートする。
 - 充実したデータベースや索引・目録類の提供
 - 学術情報資源を一元的に検索できる，ユーザビリティの高い検索サービスの提供
 - 快適かつ迅速な各種オンライン申し込みサービス， ILL/DDS サービスの提供
 - 文献管理ツールや学術情報リポジトリ（QIR）による論文執筆・公開の支援 など
- ◆ 学部・研究院等と連携し，専門的知識を有する職員による研究活動の支援を行う。
 - 高度なレファレンスサービス
 - 教員と職員が連携した選書体制 など
- ◆ 研究活動を快適かつ効果的に行える環境を提供する。
 - 研究に集中できる閲覧席，個室や研究活動に利用できるゼミ室など多様な研究用スペース
 - 参考資料，地図資料及びマイクロ資料などの資料の特性に応じた機能的な閲覧スペース
 - 国際学会にも対応可能なシンポジウムや講演会が行えるホール，研究会等が行えるスペース など

2.4 国際

大学の国際競争力強化に資し，外国人留学生・研究者の学習・教育・研究支援を充実させるとともに，日本人学生が世界に目を向ける機会を提供する。

- ◆ 外国人留学生・研究者の増加と多様化に対応し，日本人と同等のサービスを受けられるよう図書館利用支援を充実する。
 - 英語を中心とした言語によるサービス
 - 外国人留学生向けのガイダンス など
- ◆ 外国人留学生・研究者に対して有益な資料や情報を提供する。
 - 教科書や研究書等の多言語資料
 - 日本語学習・日本文化理解のための教材
 - 母国情報・地域情報 など
- ◆ 学内関係部署と連携して，外国人留学生同士，および外国人留学生と日本人学生との交流を促進するとともに，日本人学生の国際化を支援する。

- ボーダレスな知的交流スペース，交流イベント
- 留学関係資料の提供 など
- ◆ 図書館サービスの高度化のため，海外図書館とのネットワーク構築を推進する。
 - 図書館間交流協定の継続拡大
 - 海外図書館との相互利用 など

2.5 社会

地域社会への開放，学内外のさまざまな機関との連携，情報の発信を積極的に行い，九州大学の持つ地域社会における知の拠点としての役割の中核を担う。

- ◆ 地域の知の拠点として住民の生涯学習に資するため，図書館の資料・施設を地域社会へ広く開放する。
 - 来館・入館・図書の閲覧・貸出
 - 貴重資料等の展示公開
 - 展示コーナーの一般開放
 - 地域情報の収集・発信 など
- ◆ 公共図書館等の地域機関との物的・人的な連携強化により，サービスの充実を図る。
 - 図書の相互貸借
 - 研修等を通じた職員の交流 など
- ◆ 社会の学術・教育・産業の活性化に貢献するため，附属図書館が所蔵する資料や，学内で生産された教育・研究成果を電子化し，広く積極的に発信する。
 - 貴重資料等所蔵資料のデジタルコンテンツの製作・提供
 - QIR（九州大学学術情報リポジトリ）による学内研究成果の発信 など
- ◆ 学内の博物館，文書館，その他部局と連携し，九州大学としての社会への情報発信の一翼を担う。

2.6 人材育成・研究開発

前項までに挙げた基本機能を高い水準で維持・発展させていくため，状況の変化に対応できる専門性の高い人材の育成，図書館サービス高度化のための研究開発を行う。

- ◆ 体系的な研修制度や大学におけるリカレント教育等により，学習・教育・研究に積極的に関与できる専門的な人材を育成する。
 - 特定の主題分野の専門知識を有し，コレクション構築や研究活動の支援を行うライブラリアンの育成・配置
 - 学術情報流通の動向に精通し学術情報基盤を効果的に構築する人材の育成・配置 など
- ◆ 研究開発室を中心に多様な分野の教員との連携により，図書館の先端的分野における研究開発を行う。
 - 最先端の技術を活用した新しい利用者サービスの研究開発
 - 大学の学習・教育活動と連携した新たな教育支援サービスについての調査研究 など

－ 新中央図書館（仮称）計画のためのアンケートへのご協力をお願い －

附属図書館では、貝塚文系地区の移転スケジュールにあわせ、伊都キャンパスに現在の伊都図書館とは別に、新たな図書館（新中央図書館：仮称）をH29年にオープンさせる予定です。

新中央図書館は、九州大学すべての構成員へサービスを展開する総合図書館であるとともに、九州大学の所蔵する人文社会系資料の大半を所蔵する図書館となります。また、学生の方々にとっては、自習・学習の場にとどまらない、キャンパス内での「居場所」でもあるべきだと考えています。

今回のアンケートは、新しい図書館の主なユーザー層となる、全学教育を受ける低年次学生の方々と、箱崎地区と伊都地区の人文社会系学部・学府の学生の方々に、現在の図書館の利用状況と、これから建設される図書館に求める施設・設備・機能についておうかがいして、新しい図書館づくりの計画に活かそうとするものです。

ぜひアンケートへのご協力をお願いします。

質問1. あなたご自身についておたずねします

1) あなたは何年生ですか？あてはまるものをひとつ選んで回答欄に記入してください。

- ①学部1年 ②学部2年 ③学部3年 ④学部4年
⑤修士1年 ⑥修士2年 ⑦博士1年 ⑧博士2年 ⑨博士3年
⑩その他()

2) 所属学部・学府をひとつ選んで回答欄に記入してください。

- ①文学部 ②教育学部 ③法学部 ④経済学部 ⑤理学部 ⑥医学部
⑦歯学部 ⑧薬学部 ⑨工学部 ⑩芸術工学部 ⑪農学部
⑫21世紀プログラム ⑬人文科学府 ⑭比較社会文化学府 ⑮人間環境学府
⑯法学府 ⑰法務学府 ⑱経済学府 ⑲その他()

3) あなたのホームキャンパスを下記からひとつ選んで回答欄に記入してください。

- ①箱崎 ②伊都 ③馬出 ④大橋 ⑤筑紫

4) 授業の合間の時間を主にどこですごしますか？下記から選んで回答欄に記入してください。（複数回答可）

- ①図書館 ②嚶鳴天空広場 ③所属の研究室 ④空き教室
⑤学内の食堂 ⑥自宅や友人の家 ⑦学外の飲食店
⑧その他()

質問2. 現在の九州大学の図書館の利用についておたずねします

1) 現在の図書館の利用頻度を下記からひとつ選んで回答欄に記入してください。

- ① ほぼ毎日 ② 週に3～4回 ③ 週に1～2回 ④ 月に1～2回
⑤ 年に数回 ⑥ ほとんど利用しない ⑦ 利用したことがない

※①～⑤を選んだ方は質問 2)から質問 5)に、⑥か⑦を選んだ方は質問 6)におこたえください。

2) 一番よく利用する図書館・室を下記からひとつ選んで回答欄に番号を記入してください。

- ①中央図書館 ②伊都図書館 ③医学図書館 ④芸術工学図書館
⑤筑紫図書館 ⑥文系合同図書室

3) 図書館を利用する目的を下記から選んで回答欄に記入してください。（複数回答可）

- ①図書/雑誌の利用 ②一人で自習 ③グループで学習 ④PCの利用
⑤コピー/印刷 ⑥文献の取り寄せ ⑦調べ物 ⑧情報交換・時間つぶし
⑨その他()

4) 図書館のどのスペースをよく使うか、下記から選んで回答欄に記入してください。（複数回答可）

- ①静かな閲覧席 ②情報サロン(PC席) ③個人で借りることのできる個室
④グループで借りることのできる個室 ⑤会話OKの学習スペース
⑥軽雑誌・新聞閲覧スペース ⑦その他()

※裏面につづきます

5) 質問 2)で選んだ図書館について、下記の項目について評価してください。(7段階の該当する数字を○で囲んでください)

		不満	どちらともいえない					満足
施設・設備	1 図書館が身近で便利な場所にある	1	2	3	4	5	6	7
	2 座席が十分な数用意されている	1	2	3	4	5	6	7
	3 パソコンが十分な台数用意されている	1	2	3	4	5	6	7
	4 複写機/プリンタが十分な台数用意されている	1	2	3	4	5	6	7
	5 グループでの学習や会話ができるエリアがある	1	2	3	4	5	6	7
	6 1グループで占有して利用できる部屋の数要充分である	1	2	3	4	5	6	7
	7 1人で占有して利用できる個室の数要充分である	1	2	3	4	5	6	7
	8 ロッカーの数要充分である	1	2	3	4	5	6	7
資料	9 図書や雑誌が充実している	1	2	3	4	5	6	7
	10 図書や雑誌が利用しやすく分類され配置されている	1	2	3	4	5	6	7
	11 辞書・事典等が利用しやすく分類され配置されている	1	2	3	4	5	6	7
サービス	12 職員によるサポートが充分である	1	2	3	4	5	6	7
	13 開館時間が充分である	1	2	3	4	5	6	7
	14 開館日数が充分である	1	2	3	4	5	6	7

6) 図書館を利用しない理由を下記から選んで回答欄に記入してください。(複数回答可)

- ①どこにあるか知らない ②遠い ③行く必要がない ④自分に必要な本や雑誌がない
⑤その他()

質問3. 新中央図書館についておたずねします

1) 図書館に対してあなたの期待度が高い項目を、質問2の5)の14項目から5つ選んで回答欄に記入してください。

2) 教室や研究室、食堂から図書館までの距離(時間)は、どれくらいまでなら許容できますか？

下記からひとつ選んで回答欄に記入してください。

※キャンパス内の高低差は、エレベーターやエスカレーター等の移動手段が確保されていると仮定します。

- ① 80m(1分)まで ②240m(3分)まで ③400m(5分)まで
④800m(10分)まで ⑤800m以上(10分以上)でもよい

3) 近年の大学図書館では、静かな閲覧スペースと、会話をするのできる学習スペースという2つのタイプのスペースを用意することが主流となってきています。あなたのイメージする新中央図書館には、会話をするのできる学習スペースが、利用者スペースのうち何割くらいあるとよいと思いますか？

- ①なくてもよい ②1割 ③2割 ④3割 ⑤4割 ⑥5割 ⑦それ以上

4) 新中央図書館について、下にあげた設備や機能、サービスに対する期待度を選んで数字を○で囲んでください

		よ い く て も	た あ い れ ば 使 い					必 要 で あ る
座席について	1 ノートや資料を広げながらPCを利用できる広い座席	1	2	3	4	5	6	7
	2 隣や前に座った人との間に仕切りのある座席	1	2	3	4	5	6	7
	3 1人で占有して利用できる個室	1	2	3	4	5	6	7
	4 声を出してeラーニング等を行える防音機能のある部屋	1	2	3	4	5	6	7
	5 図書館の資料を利用しない自習スペース	1	2	3	4	5	6	7
	6 本棚のあいだの読書用の椅子・机	1	2	3	4	5	6	7
	7 資料作成などの作業机・スペース	1	2	3	4	5	6	7
	8 長期間にわたり継続して占有できるブース	1	2	3	4	5	6	7
	9 特殊な形態の資料(大型資料、マイクロフィルムなど)を集中して利用できる場所	1	2	3	4	5	6	7
	10 テラスや屋上など、室外空間の座席	1	2	3	4	5	6	7
休憩場所について	11 食事をとることができる	1	2	3	4	5	6	7
	12 仮眠をとれる快適なソファ等	1	2	3	4	5	6	7
	13 景色のよさ	1	2	3	4	5	6	7
ロッカーについて	14 大型の荷物を入れることのできるロッカー	1	2	3	4	5	6	7
	15 長期間継続して利用可能なロッカー	1	2	3	4	5	6	7
その他サービス	16 各階に図書館スタッフが配置されている	1	2	3	4	5	6	7
	17 24時間開館している	1	2	3	4	5	6	7
	18 365日開館している	1	2	3	4	5	6	7

質問4. その他、現在の図書館やこれからの図書館への要望等がありましたらご記入ください

新中央(文系)図書館検討のためのアンケート(教員・大学院生向け)

1. 所属部局と職名についてあてはまるものを選んで回答欄に記入してください。

所属

- ①人文 ②比文 ③人環(文学系) ④人環(教育学系) ⑤人環(工学系)
⑥法 ⑦経済 ⑧言文 ⑨その他

職名等

- ①教授 ②准教授 ③講師 ④助教 ⑤大学院(博士) ⑥大学院(修士)
⑦その他 ()

2. 学内の資料の利用状況について

1) ご自身の研究や教育を行うために、下記の資料を現在どれくらいの割合で利用していますか？

全体で100%となるように回答をお願いします。

※文系地区の資料について、詳細がわからない場合は②を選んでください。

※図書館で管理をしていない資料についてはすべて⑦に含めてください。

- ①図書館(中央図書館・伊都図書館等)所蔵の資料 ①0% ②10% ③20% ④30% ⑤40% ⑥50%
⑦60%⑧70% ⑨80% ⑩90% ⑪100%

- ②貝塚文系地区書庫(文系合同図書室)所蔵の資料 ①0% ②10% ③20% ④30% ⑤40% ⑥50%
⑦60%⑧70% ⑨80% ⑩90% ⑪100%

- ③学科図書室所蔵の資料 ①0% ②10% ③20% ④30% ⑤40% ⑥50%
⑦60%⑧70% ⑨80% ⑩90% ⑪100%

- ④講座等の研究室、共通室所蔵の資料 ①0% ②10% ③20% ④30% ⑤40% ⑥50%
⑦60%⑧70% ⑨80% ⑩90% ⑪100%

- ⑤個人研究室所蔵の資料 ①0% ②10% ③20% ④30% ⑤40% ⑥50%
⑦60%⑧70% ⑨80% ⑩90% ⑪100%

- ⑥電子ジャーナル、電子ブック等 ①0% ②10% ③20% ④30% ⑤40% ⑥50%
⑦60%⑧70% ⑨80% ⑩90% ⑪100%

- ⑦その他(個人所有の資料、学外の資料等) ①0% ②10% ③20% ④30% ⑤40% ⑥50%
⑦60%⑧70% ⑨80% ⑩90% ⑪100%

2) 上記の②にある資料が移転後に新中央館に収蔵された場合、研究や教育に支障が生じますか？

- ① はい ② 新中央館までの距離による ③ いいえ

3) 上記の③にある資料が移転後に新中央館に収蔵された場合、研究や教育に支障が生じますか？

- ① はい ② 新中央館までの距離による ③ いいえ

4) 上記の④にある資料が移転後に新中央館に収蔵された場合、研究や教育に支障が生じますか？

- ① はい ② 新中央館までの距離による ③ いいえ

5) 上記2)、3)、4)の質問で「はい」と回答された方々へ

図書館が24時間開館していれば研究や教育に支障は生じませんか？

- ① はい ② いいえ

3. 資料の分類法について

平成11年3月にまとめられた「図書資料分類法の統一に関する検討会議報告」のなかで、キャンパス移転後の新図書館における統一分類法として、日本十進分類法(NDC)を採用することが提案され、第1回新中央(文系)図書館検討専門部会(H14.8.26)、第180回附属図書館商議委員会(H15.2.26)において了承されています。

報告のなかでは、NDCを採用する利点として、蔵書数が多く、不特定多数の利用者が利用する大規模図書館では、全学問分野をカバーした、統一された簡明な規則のもとで分類されることが望ましいことなどがあげられています。

1) 図書の分類法と新中央館での資料の配架について、下記のどれが望ましいですか？
ひとつお選びください。

①移転後に新規に受入する資料は原則としてNDCで分類する。現在独自の分類をされているものについては、今後段階的にNDCに再分類して再配架をしていくべき

②移転後に新規に受入する資料は原則としてNDCで分類する。現在独自の分類をされているものについては、移転後も分類はそのままとし、移転終了後の新規受入資料とはエリアを分けて配架する。

③各部局独自の分類体系は移転後も維持することが望ましい

2) 独自分類を維持すべき資料について、また分類法全般についてご意見がありましたらご記入ください

4. 新中央館へのアクセスについて

研究室から新中央館までの距離(所用時間)は、どれくらいまでであれば許容できますか？

※キャンパス内の高低差については、エレベーターやエスカレーター等の移動手段が確保されているとします。

- ① 80m(1分)まで ②240m(3分)まで ③400m(5分)まで ④800m(10分)まで
⑤800m以上でも構わない ⑥その他

5. 新中央館における資料の収蔵方法について

新中央館の面積によっては、移転完了後に収蔵予定の資料を、すべて開架方式で配架することが困難となる場合があります。また、開架方式の資料を増やした場合、相対的に全体の収蔵可能冊数は低下します。上記のような場合、どのような対応が望ましいとお考えか下記からお選びください。

- ① 各部局の面積を抛出して図書館の予定面積を増床してでも開架方式の資料を増やすべきである
② 予定面積の範囲内で、できるだけ開架方式の資料を増やすべきである
③ 予定面積の範囲内で、開架方式と閉架方式の最適のバランスをとるべきである
④ 開架図書を増やすよりも、図書館としての収蔵能力の強化を優先すべきである
⑤ その他

6. 図書館の教育目的での活用について(教員の方のみご回答ください)

1) 図書館内に講義室、ゼミ室を設けた場合に利用しますか？

①利用する ②図書館までの距離による ③利用しない

2) ①, ②と回答された方へ 講義室、ゼミ室にもとめる設備について、ご意見をお願いします

_____ 名収容の講義室 _____ 室 希望する設備: _____
_____ 名収容のゼミ室 _____ 室 希望する設備: _____

7. 図書館の基本的な施設/設備以外に、新中央図書館に必要とお考えの施設/設備がありましたらお聞かせください。

8. 新中央館のあり方(形態)について

マスタープラン2001において、伊都キャンパスでの施設配置の方針として、理系図書館と新中央館の2館を整備することが示されています。新中央館WGではマスタープランの方針のもと、下記の選択肢のうち図書館集中型を念頭において基本計画を策定しています。新中央館と部局とのあり方については、図書館集中型のほか、以下にあげた形態が考えられますが、皆様はどのあり方が望ましいと考えておられますか？下記からお選びください。

①図書館集中型

現在、部局の研究棟(文系合同図書室等)にある資料は新中央館に配架し、図書に関する各種のサービス(購入図書の受け渡し等)も新中央館で行う。(面積効率は最も高い):必要面積は、おおよそ20,000㎡以上。

②サービスポイント設置型

現在、部局の研究棟(文系合同図書室等)にある資料は新中央館に配架し、一部のサービス(資料の受取り等)を行うポイントのみ部局の研究棟に配置する:必要面積は図書館集中型よりやや少ない。

③ネットワーク型

新中央館のほか、部局の研究棟にも一部書庫や資料室、閲覧スペース等を設置し、新中央館は各図書室と連携する。:必要面積は機能の分担程度によって大きく異なり、15,000㎡~18,000㎡程度。

④機能分散型

研究に必要な資料は、新中央館ではなく主に部局の研究棟に所蔵する。新中央館は基本的な資料の提供や学習の場の提供等の機能を主に受け持つ。:必要面積は、おおよそ12,000㎡程度。

⑤分離独立型

研究に必要な資料は、新中央館ではなくすべて部局の研究棟に所蔵する。各部局ごとに図書の運用と管理を独自に行う、研究所型図書室を持ち、新中央館は基本的な資料や学習の場の提供の機能のみを持つ(面積の効率をもっとも低い):必要面積は12,000㎡以下となる。

9. その他、新中央館や現在の図書館についてご意見がありましたらお聞かせください。

2011.11.1

新中央（文系）図書館検討のためのアンケートへの協力をお願い

新中央（文系）図書館基本計画検討 WG

附属図書館商議委員会の下の新中央（文系）図書館検討専門部会に設けられた新中央（文系）図書館基本計画検討 WG（以下、新中央館 WG）では、伊都キャンパスへの文系部局移転にあわせて平成 29 年に開館される予定の新中央（文系）図書館（仮称：以下、新中央館）について検討を行っています。新中央館 WG では、今後さらに検討をすすめていくにあたり、人文社会系部局の教員や大学院生の方々を対象にアンケートを実施し、現在のご自身の研究・教育と図書館（図書や雑誌）との関係や、新中央館についてご意見をおうかがいしたいと考えています。

まずは、今回のアンケートにご協力いただく前に、具体的に新中央館をイメージしていただくため、以下のような解説を付しました。アンケートのご参考になれば幸いです。

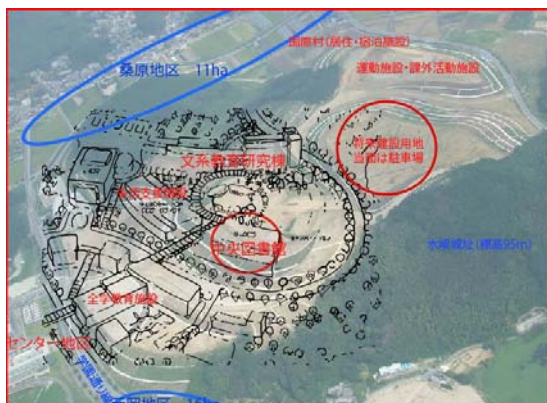
1. 基本計画第一次案の概念と新中央館のイメージ

新中央館 WG の作成した「新中央図書館基本計画第一次案」では、「九州大学の次の百年を担う図書館」としての図書館のかたちを提示しました。

新中央館は、附属図書館全体を統括する総合図書館であるとともに、本学の人文社会系資料の大半を収蔵し、関係する構成員の研究と教育を支援する巨大な図書館となります。さらに学生にとって、学習・研究の場にとどまらず、伊都キャンパスでの主要な「居場所」となり、さらには大学の社会貢献、国際貢献の一翼をも担う、いわば「九州大学の顔」となる図書館を目指しています。

今後の検討では、基本計画第一次案の理念に基づき、より具体的な図書館像について、構想をとりまとめていく予定です。

2. 大学の移転計画における新中央館と研究・教育施設との位置関係



(伊都キャンパス文系地区のイメージの一例：マスタープラン 2001 より)

九州大学が 2001 年に策定したマスタープラン 2001（キャンパス計画における基本的な方針）の中では、新中央館については「イースト・ゾーンの一般研究・教育施設との関係、および全学的利用に配慮」、また一般研究・教育施設について「中央図書館へのアクセスに配慮」

と記されていますが、詳細については、今後行われる「文系地区基本設計」のなかで検討されることとなります。したがって、文系地区全体の計画と連携しながら、新中央館の具体的なイメージを創りあげたいと考えています。

3. 面積など、基本的な情報

○伊都キャンパスの文系地区について・・・現在の貝塚地区よりも研究・教育施設と新中央館が近接して立地することになります。

○新中央館の収容予定冊数・・・**350万冊** 今後の増加分（年間37,000冊程度）を考慮

*参考：文系地区移転完了時（平成30年予定）時の蔵書冊数：約260万冊

（「九州大学附属図書館移転計画2007」第196回附属図書館商議委員会了承より）

○新中央館の予定面積 **12,000㎡（最小面積：*1）** ～ **31,000㎡（最大面積：*2）**

最小面積を越える部分については、今後文科省との協議により決定されることとなり、現時点で新中央館の予定面積を確定的な数字でお知らせすることはできません。

この条件のもとで、書架や閲覧席、その他利用者のための諸室に使用できる面積（予定面積から管理（事務）部門や、廊下、階段、トイレなどの必要面積を差し引いたもの）を算出すると、**4,200㎡ ～ 16,550㎡**となります。

最小面積での整備となった場合は、350万冊（収容予定冊数）すべてを集密あるいは自動書架に収蔵する必要があり、最大面積での整備となった場合は、350万冊をすべて通常書架（開架：書架で直接資料を手にとることが可能）にすることも可能です。

したがって、最小面積の場合には、各部局に図書館のもつ機能の一部を分有していただく必要があるかもしれませんし、最大面積の場合には、基本的な図書館機能に加えて、研究、教育機能を従来よりさらに充実させることも可能です。

本アンケートでは、こうした背景をお知らせしつつ、みなさまの率直な意見をうかがうことを目的としています。

*1：最小面積について（現有面積として、移転事業の中で確保されている面積）

文系合同図書室書庫を含む、箱崎と旧六本松地区の図書館面積（「国立大学法人等施設実態調査」で調査単位が「大学図書館」とされている施設面積）から伊都（理系）図書館分の面積等を引いた面積

*2：最大面積について

文部科学省の「大学図書館施設計画要綱」（1966）の面積算定基準[図書館の場合、学生数、蔵書冊数に基づく]により算出した場合の面積

参考：各館室の総延面積（「文部科学省学術情報基盤実態調査」、九州大学「図書館要覧」より）

伊都図書館：14,741 m² 中央図書館：13,668 m² 旧六本松図書館：5,115 m²

文系合同図書室：5,740 m² 記録資料館：3,428 m²

（ここにあげた面積は、学術情報基盤として図書館サービスを行っている施設全体の面積であり*1 でご説明した、施設管理上「大学図書館」とされる面積とは異なる基準によるものです）

図書資料の収納や閲覧席に必要とされる面積を以下にあげます。

※実際には、諸条件により数値はかわりますので、あくまで参考としてご覧ください

○資料収納のための面積

通常書架・・・250冊/m²（開架：書架で直接資料を手にとることが可能）

集密書架・・・500冊/m²（開架：資料を直接手に取れるが、同時利用人数に限られる）

自動書庫・・・800冊/m²（閉架：検索した資料を1冊ごとにPCから出庫要求して利用）

※通常書架、集密書架については、運用上職員の出納による利用（閉架形式）となる場合があります。

【収蔵方法の例】

- ・350万冊をすべて通常の開架収蔵とした場合・・・14,000 m²
- ・200万冊を開架、150万冊を集密書架とした場合・・・8,000+3,000=11,000 m²
- ・100万冊を開架、250万冊を集密書架とした場合・・・4,000+5,000=9,000 m²
- ・100万冊を開架、150万冊を集密書架、100万冊を自動書庫とした場合
・・・4,000+3,000+1,250=8,250 m²
- ・100万冊を開架、100万冊を集密書架、150万冊を自動書庫とした場合
・・・4,000+2,000+1,875=7,875 m²

○閲覧席のための面積

1人掛け 2.86 m²/人, 2人掛け 2.16 m²/人, 6人掛け 1.49 m²/人

→ 2.4 m²/人【平均】

座席数については、文科省「大学図書館施設計画要綱」（1966）に算定基準がありますが、ここでは現在の九州大学の図書館の2館の座席数、伊都図書館（740席）と現中央図書館（701席）に基づき、新中央館での座席数を約800席と仮定します。

座席数 800席×2.4=1,920 m²

参考: 九大図書館の開架率

図書館名	面積(m ²)	蔵書冊数(千冊)	うち開架図書冊数(千冊)	開架率
九州大学 中央図書館	13,668	938	800	85.3%
伊都図書館	11,133	921	390	42.3%
文系合同図書室	5,740	1,406	914	65.0%

(2010年3月31日現在)

「日本の図書館2010」 日本図書館協会編 より

参考例: 収容可能冊数ベースでの開架率

早稲田大学
「大学図書館研究」38(1991.10)より

配架場所	冊数(千冊)	割合
開架閲覧室	201	7.9%
開架書庫	1,570	61.8%
閉架書庫	(一部あり冊数不明)	
自動書庫	500	19.7%
その他	271	10.7%
計	2,542	

國學院大學
「大学図書館研究」85(2009.3)より

配架場所	冊数(千冊)	割合
開架閲覧室	90	4.9%
開架書庫(一般書架)	200	11.0%
開架書庫(集密書架)	500	27.4%
自動書庫	1,000	54.8%
その他	35	1.9%
計	1,825	

九大伊都(理系)図書館
(移転完了時の収容冊数)

配架場所	冊数(千冊)	割合
開架閲覧室	370	26.8%
開架書庫(集密書架)	180	13.0%
閉架書庫	110	8.0%
自動書庫	800	58.0%
計	1,460	

アンケートについては下記URLのアンケートフォームからご回答ください。
(入力期限: 12月26日)

大学院生の方々にも、アンケートに回答いただきますよう、周知についてご協力をお願いいたします。

※大学院生については、学生向けアンケートにもご協力いただければ幸いです。

【教員向けアンケートURL】

<http://reas2.code.ouj.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/REAS?t=18672>

【学生向けアンケートURL】

<http://reas2.code.ouj.ac.jp/cgi-bin/WebObjects/REAS?t=18518>